

卓球部



「明るく！楽しく！元気よく！」

進学校ながらも、県内の強豪の一つとして、技術を磨くことだけでなく、精神的にも成長できるように頑張っています。部活動のみならず、学習・日常生活も充実させながら、目標を体現していきます。

部員数・スタッフ

【部員】

1年 18人 2年 13人 3年 97人

【顧問】

桑原 啓優 新庄 真由子 浅野 由樹

※練習試合のお誘いや、練習参加の依頼、問い合わせがありましたら、顧問：桑原までお願いします。

目標・活動内容

【目標】

男女アベック東海大会出場 および 全国大会出場

【活動日】

平日：平日18時まで、大会前は延長練習を実施。基礎練習を中心に、効率よく練習を実施。

休日：練習・練習試合・遠征・大会など。大会前は県外遠征にも行きます。

県部活動ガイドラインに従って、年間計画を作成し、休養日を設定。

平日火曜日休み(原則)。休日は練習・大会・練習試合・遠征のスケジュールによる。

5月県総体前、11月県新人前をシーズンとし、徹底的に練習をしますが、それ以外の春、夏、冬のそれぞれの季節にまとまった休みを用意します。

年次休暇制度を採用しており、年間5日、自由な休みも取ることができます。

休みをしっかりと取る分、やるときは徹底的に練習し、しっかりと結果を出していく、今後の部活動のモデルケースとなることを目指します。

【活動内容】

「進学校最強」を掲げ、学習と部活動を高い次元で両立します。
練習を工夫し、実業高校とも対等以上に渡り合うことを目指します。

○明確な方針をもって、基礎から綿密に指導します。練習が大変な時もありますが、しっかり取り組めば、初心者も経験者も入部してからどんどん上達します。中学校時代にほとんど実績を残していないですが、県代表として上位大会で活躍できるようになった選手も多くいます。

○県内進学校でも数少ない、県外遠征やオープン戦に積極的に出場しているチームです。卓球を通して、県内外に友人ができます。

○部活動で忙しくなることもありますが、学習についても十分な成績を収めている部員も多くいます。目標・理想の体現のために、学習との両立は必須です。部活動で学習が滞る場合は、部活動の参加を制限することがあります。

【近年の卒部生の進学先】

名古屋大学 名古屋工業大学 東京都立大学 横浜市立大学 福岡県立大学 岐阜大学
奈良県立大学 公立小松大学 鳴門教育大学 南山大学 愛知大学 名城大学 等

主な成績

【令和5年度】

- ・県高校総体 団体の部 男子ベスト8
個人の部 女子4名ベスト32
- ・中部日本卓球選手権 男子シングルス ベスト32
- ・岐阜県高校生新人卓球大会
男子団体 準優勝
女子団体 優勝
女子個人 準優勝
- ・岐阜県高等学校新人卓球大会
男子団体 6位
女子団体 4位 東海高等学校新人卓球大会出場

【令和4年度】

- ・県総体地区予選 個人シングルス 男子5名 女子6名が県大会に進出
ダブルス 男子1組 女子3組が県大会に進出
- ・県高校総体 男子ベスト8 女子ベスト8
- ・東海卓球選手権本戦 男子1名 女子2名出場
- ・地区新人大会 女子団体 優勝
- ・全国選抜県予選 女子シングルス ベスト8 2名

【令和3年度】

- ・県総体地区予選 女子団体県シードにつき出場無し 男子団体2位
- ・県総体地区予選 個人シングルス 男子5名 女子6名が県大会に進出
ダブルス 男子1組 女子1組が県大会に進出
- ・県新人 男子団体・女子団体 ベスト8
- ・全国選抜県予選 女子シングルス 優勝
- ・全国選抜卓球大会 出場

【令和2年度】

- ・県高校総体 女子団体 第3位
- ・地区新人戦 男子団体 優勝
- ・女子団体 県シードにつき出場なし
- ・県新人 女子団体 第3位 東海新人戦出場（2年連続）

【令和元年度】

- ・県高校選手権 女子団体 第3位
- ・東海卓球選手権 シングルス 7名出場 ダブルス 2ペア出場
- ・地区総体 男子団体 第3位
- ・女子団体 第2位
- ・地区新人戦 男子団体 第2位
- ・女子団体 県シードにつき出場なし
- ・県新人 女子団体 第5位 東海新人戦出場

【平成30年度】

- ・県高校生選手権 男子団体 第3位
- ・東海卓球選手権 2名出場
- ・地区総体 男子団体 第3位
- ・女子団体 第3位

- 地区新人戦 男子団体 第3位
- 女子団体 優勝